

講義名	教養特講Ⅰ（情報デザイン基礎）		
科目区分	教養特講		
担当教員	山口 美緒里		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
備考			

主題と概要			
<p>自分の1日を生活を振り返った時に、いったいどのぐらい、どのような情報に触れているでしょうか。また、人はどんな情報だとアクセスしてみたいと思うのでしょうか。</p> <p>この講義の目的は、これまで小・中・高を通して学校で学んだ基礎知識を振り返りながら、情報メディアの発展やこれからの情報の扱い方など身の回りの情報がどのようにデザインされて届けられているのか、情報デザインの基礎を身に付けることである。具体的には受講者が未履修であるがこれから始まるプログラミング教育の背景や関連基礎知識、グローバル社会における情報収集・発信などについて扱う。初学者にもわかりやすいように具体的な国内外の事例に基づいて多様な情報デザインについて受講生の解釈も交えながら一緒に紐解き、情報の構成要素や伝達・応用方法などについて実践的かつ俯瞰的に捉えられることを目指す。</p>			

到達目標			
<p>①情報学に関する基礎的知識・技能を身に付けることができる ②身の回りの情報デザインの工夫に気づき、特性を理解できる ③目的に合わせた情報デザインを考えることができる</p>			

提出課題			
<p>7回目の授業で課す中間レポート、及び最終授業後に提出する最終レポートを課す。 通常授業において小レポート・小テストを行い、理解度を把握する。 詳細は1回目の授業時に指示する。</p>			

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
<p>中間レポート、最終レポート共に、ルーブリックに基づいて評価する。ルーブリックの項目はレポート課題提示時に公開する。 小レポート・小テスト、中間レポート共に評価後の授業において取り扱い、前時の受講内容と関連付けながら振り返る。 レポートの内容を公開することで受講生同士の学びを深められるようにフィードバックする。 必要に応じてLMS（オンラインの学習管理システム）を活用し、課題の提出や学習者同士の交流を行う。 なお、内容によっては匿名性に配慮しながら共有する。 最終授業日の最終レポート発表会では、発表内容について教員からの評価に加えて受講生による相互評価を取り入れる。</p>			

評価の基準			
<p>平常点評価（小レポートを含む講義内での課題：40％）と中間レポート（30％）、最終レポート、レポート発表会（30％）により評価する。 平常点は授業内で行うグループワーク等の活動状況も含め、総合的に判断する。 レポートは、①授業で取り扱った内容について理解できているか②必要な情報を収集できているか③定められた観点に基づいて自分の解釈で意見を述べられているか④読み手に取って分かりやすく情報がまとめられているかの大きく4観点に基づいて評価する。</p>			

履修にあたっての注意・助言他			
<p>情報に関する事前知識は必要ないが、授業の中で考えや意見を求める場面を多く設定する。最初は誰もディスカッションや発表に戸惑うが、回数を追うことに慣れてくる為、受講し続けることが大切である。 レポートは、①授業で取り扱った内容について理解できているか②必要な情報を収集できているか③定められた観点に基づいて自分の解釈で意見を述べられているか④読み手に取って分かりやすく情報がまとめられているかの大きく4観点に基づいて評価する。 講義50％、アクティビティ50％程度の授業構成であるため、意欲的な授業参加が必要である。 表現やディスカッションが苦手な学生や言語にハンディキャップがある留学生などでも意見交換ができるように配慮する。</p>			

教科書			

プリント資料及び参考文献			
<p>必要に応じて授業内で指示及び配布する。特に、留学生が翻訳機を使用しやすいようになるべくデジタル資料を配布する。</p>			

授業計画			
第1回	オリエンテーション		
第2回	情報とは？①情報を分解してみよう		
第3回	情報とは？②分類した情報をくっつけてみよう		
第4回	情報とは？③さわれる情報、さわれない情報		
第5回	情報とは？④情報デザインの作品鑑賞		
第6回	情報とは？⑤情報と国際化		
第7回	これまでの振り返りと中間レポートについて		
第8回	情報の活用①情報のまとめかた、情報表現		
第9回	情報の活用②プログラミングって何？		
第10回	情報の活用③情報を動かす		
第11回	情報の活用④人の気持ちと情報の関係		
第12回	情報の未来①情報学の最前線		
第13回	情報の未来②情報と私たちの付き合い方		
第14回	最終レポートに向けた個人テーマによる課題研究		
第15回	最終レポート発表会、まとめ		

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		
	<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート		
	<input type="radio"/> エ：グループワーク		
	<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション		
	カ：実習、フィールドワーク		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間			
<p>予習は必要ないが、授業で学んだ内容を生かして身近な身の回りの多くの情報にセンサーを張って蓄えておくこと。1日1つは新しい情報を仕入れておくこと。</p>			

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述			
<p>毎回の授業感想をオンラインシステムによって提出及び管理、集計、フィードバックする。主にGoogle社のGoogleフォームやGoogleクラスルームなどを活用して、学生も見ることができる学びの軌跡をeポートフォリオとして残す。授業内ではスマートフォンを利用媒体として使用する。 留学生や特別な配慮が必要な学生への言語面での配慮として、デジタル媒体での資料配布や音声入力システムを行うことで文字表示機能や翻訳機能を利用できるように配慮する。 授業内は主にPowerPointスライドで進め、適宜動画などを利用する。</p>			

実務経験の有無及び活用			
<p>実務経験あり 大学での情報に関する科目（講義・演習）や主に小学校から高校に関わる国内外での授業や教員研修講師（英語、ベンガル語など）を生かして、受講生の特性や理解状況に合わせた授業構成及び教材作成を行う。</p>			
備考			